

支 部 長 挨 捶

このたび、平成18年6月の北海道支部第1回理事会におきまして、第25期の支部長に選出されました。大変光栄なことと感じております。

これまで、学会運営に直接関わらない縁薄い会員でしたが、札幌管区気象台長の立場に配慮された皆様方の熱意が重なり、このような結果を導いたものと認識し、お引き受けすることと致しました。何分にも知識・経験も浅く微力ではございますが、北海道支部発展のため、支部長の職責を精一杯努めさせて頂きますので、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

平成17年度の活動では、稚内地方気象台の「防災気象講演会」と共催し、「気象講演会」を地方都市で開催しました。地元関係機関のご協力もあり80名を超える多くの参加者があるなど、地方都市ならではのテーマを交え盛会のうちに終了することができました。

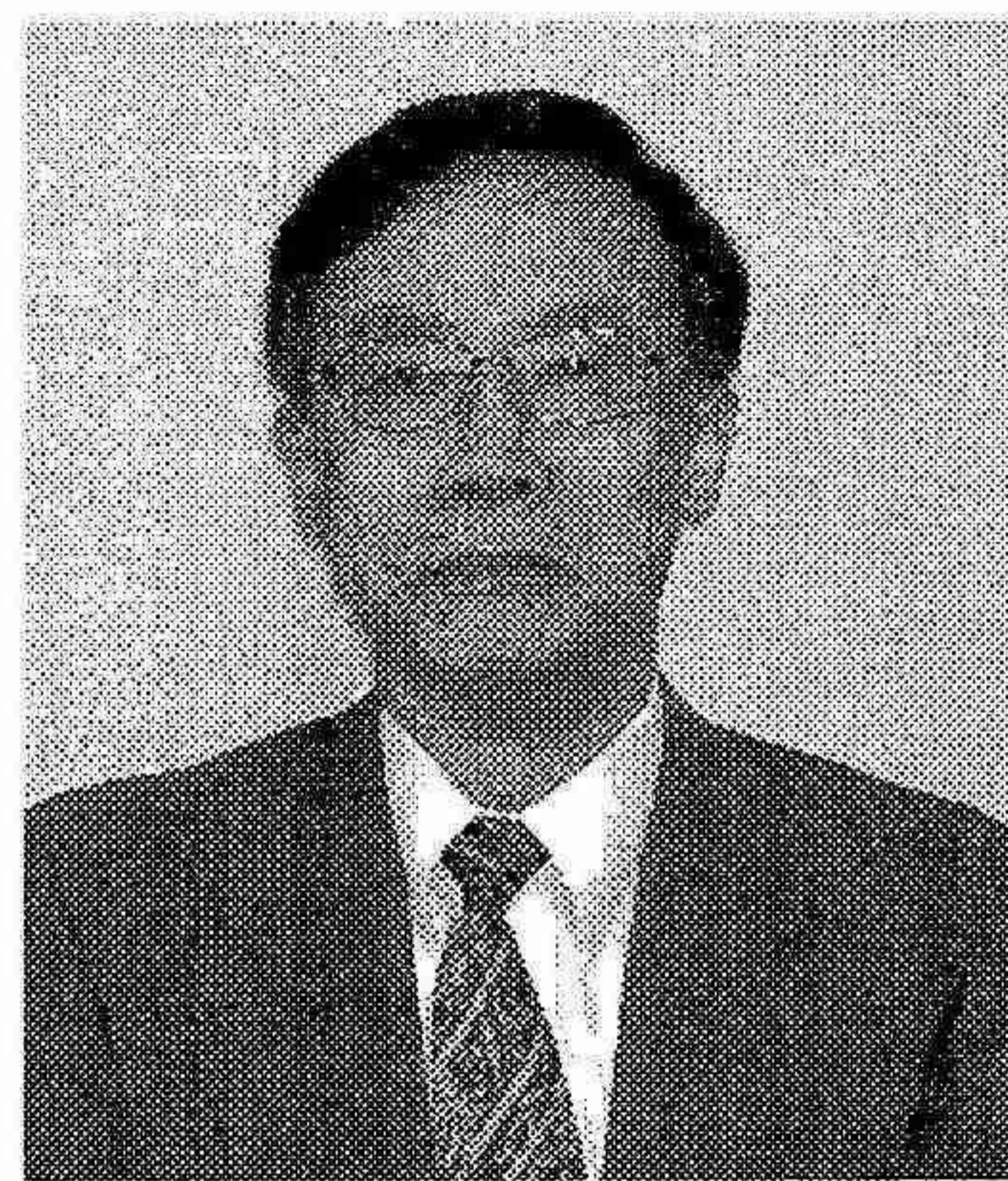
今年度の活動は、ご承知のとおり、6月の総会においてご承認を頂いた事業計画に沿って、鋭意、推進しているところであります。8月には、札幌市青少年科学館との共催で、研究の立場から幅広く気象知識を普及させるため、一般市民を対象とする第24回気象講座「新しい気象」を開催しました。20名を超える方々の参加を頂き、なかには毎年連続の常連さんも見受けられるなど、支部の活動が多くの人達に理解され、市民生活の中に定着してきている証だと感じたところです。

今年度の事業活動の骨子は、昨年度に比べ特に大きな変更点はございませんが、北海道支部ホームページの一層の充実・活用などにより、気象学発展のため研究者の意見交換・発表の場を少しでも多く提供し、研究成果・保有する情報をより広く地域に流通させたいと考えています。

一方、支部の活動を通して、近年続いている会員の減少に歯止めをかけることも大変重要な課題と認識しています。このため、支部の活性化に資する方策の検討や会員の皆様のご協力とお知恵を拝借するなどして、より大きな成果が得られるよう期待しています。

さらには、平成19年には5年ぶりに秋季大会の札幌開催が予定されています。北海道支部の総力を結集し、このイベントの成功に向け準備委員会を立ち上げ、綿密な準備をしっかりと進めることとしています。

結びになりますが、今、自然災害の防止、地球温暖化の進行・異常気象の増加などによる地球環境に関する課題など、市民の関心が大変高まっています。このような情勢にあって、少しでも多くの方々が、自然現象や気象学に興味を示して頂けるよう、会員の皆様には、支部活動へのご協力とご支援を重ねてお願い申し上げます。



(社) 日本気象学会北海道支部
支部長 濱崎 雅憲
(札幌管区気象台長)